

# 佐賀市 45 歴史探訪

## 「大銃製造方」と本島藤太夫

“幕末佐賀藩が行った鉄製大砲の铸造”、日本で最初にこの偉業を実現したのが「大銃製造方」です。嘉永3年(1850)7月に起工された築地の反射炉で始まった鉄製大砲の铸造は、幾多の困難を乗り越え、翌年10月に、ようやく成功しています。この「大銃製造方」のメンバーには、蘭学者や西洋技術者のほか、いもじ 鋳物師やかたな 刀鍛冶など古くから日本に伝わる技術の職人も含まれていました。

今回、紹介する本島藤太夫は、こうした多彩なメンバーからなるプロジェクトチームのリーダーを務めた人物です。

本島藤太夫は、文化7年(1810)生まれで、長く10代藩主鍋島直正かんそう(閑叟)の側近を勤め、「大銃製造方」の前身である「火術方」の創設以来、一貫して佐賀藩の軍備面を担当し、直正の軍事政策の実現に奔走しました。

その後、本島藤太夫は、「御台場増築方」こうぎいし「公儀石火矢鑄立方」びやいたて「蒸気船製造役局」おおとのさまおん「海軍取調方」などの役職を歴任し、直正の隠居とともに「大殿様御側御目付」に就任しています。

明治3年(1870)には隠居して松蔭と号した後、しょういん『松之落葉』を執筆し、明治22年(1889)に亡くなっています。この『松之落葉』は、天保14年(1843)以降の佐賀藩軍備の記録をまとめたもので、勝海舟の『海軍歴史』『陸軍歴史』などにも参照・引用され、現在でも貴重な歴史資料となっています。

### 一口メモ

本島藤太夫の墓碑は、佐賀市伊勢町の妙覚寺の一角に、ひっそりと残っています。自然石の墓碑で、碑面には「本島松蔭之墓」とだけ刻まれています。



◀ 築地反射炉跡の記念碑



◀ 復元鉄製24ポンドカノン



◀ 本島藤太夫の墓碑

